

CO-VIVID21

Vol.2



By 英米語学科4年塩崎ゼミ
ごあいさつ

CONTENTS

- ・ 大野先生思い出の
ド定番「英国グルメ」
- ・ NHK講師の居村先生に聞く
「ラジオ番組」の舞台裏
- ・ 博多弁を操る不思議な
新人教員「ジェフ先生」
- ・ 大越先生の世界を変えた
「識字学級ボランティア」
- ・ 「教職用英国留学」で
夢に近づいた小田島君
- ・ SNSコンテンツをバイリン
ガルで作る「河原ゼミ」
- ・ 内定者が明かす「高級リゾート
ホテル」の採用試験

前期はオンライン授業のため、学生同士のコミュニケーションが取りづらく、こともありました。先生方や英米語学科生が取材に協力してくれたおかげで、第2号がついに完成しました。就活やゼミ、大学生活などに関する役立つ記事が満載。コロナ禍を吹き飛ばすインスピレーションをお届けします。

(編集者・河村 真由)

2021年8月30日



留学&グルメ イギリスの国民食、 フィッシュ・アンド・ チップス

今回は大学院へ通うため約2年イギリスのエセックス州に留学していた大野英樹先生に、大好物のフィッシュ・アンド・チップスの魅力を語ってもらった。

Q フィッシュ・アンド・チップスはイギリスの国民食らしいですね。特色と由来を教えてください。

フィッシュは白身魚のフライなんだけど、パン粉は使っていないから、コロモが付いてる感じ。チップスは、フライド・ポテトのことね。

ジャガイモは、土地がやせて冷涼なイギリスでは主食扱い。タラは昔から近海でよく取れた魚なので、二大食材の組み合わせだね。

カロリー高いし、腹持ちがいいので、庶民の好物だったんだ。健康志向の人からは敵扱いされてるかな。

海沿いの町じゃなくても、必ず専門店が1, 2店はある。ランチの定番っていう感じかな。

Q フィッシュ・アンド・チップスの魅力は？

イギリス料理は美味しくないっていう悪評だけど、まずいんじゃないって味が無い。

イギリスの飲食店には山ほど調味料が置いてあって、自分で味付けしてねってことなんだ。

フィッシュ・アンド・チップ

スの場合は、塩とお酢で決まり。イギリスのお酢はモルトビネガーといって麦芽から作られているから日本の酢ほど酸っぱくない。

ちなみに、店では白身魚も選べる。コッド(タラ)とハドック(タラ科)があって、食べ比べてみてほしい。身の大きさと油ののり方が違うんだ。僕はコッド派ね。

Q フィッシュ・アンド・チップスの思い出は？

学校帰りや論文を書き終わって疲れ果てた時に食べたフィッシュ・アンド・チップスが最高だった。

パブでも頼めるけど、お皿に乗って出されるお行儀がいいものではなく、新聞紙や紙に包まれているものじゃないと本当に美味しくないね。庶民の食べ物だから、カジュアルに食べない。

とはいえ、今のレートだと日本円で1500円はするから御馳走だね。

Q おすすめのお店は？

町の人に聞くのが一番だけど、自分が留学してたエセックス州のウイブーンホーという町では、ヘンリーズ・フィッシュ&チップス (Henleys Fish and Chips - Award winning fish and chip shops) というお店だね。このお

店は有名な賞を何度か受賞したことがあるんだ。かなり通ったな。魚の新鮮さとリーズナブルな値段が魅力だね。

拓大生の留学先のボーンマスだと、フランス語の店名のシェ・フレッド (Restaurant- Chez Fred Fish and Chips - Westbourne) が大人気。

しかし、あんなに好きだったフィッシュ・アンド・チップスも、日本に戻ると食べたいとは思わない。イギリスで食べないと美味しくないと思う。(川口 あい)



フィッシュ・アンド・チップスを食べる大野先生



大学院時代の大野先生

キッズ英語ラジオ番組パーソナリティ、 居村啓子先生に聞く！

英米語学科准教授で、NHKのラジオ番組「小学生の基礎英語」（月・水・金、午後6時35分～6時45分）で講師（解説 出題者）を担当されている、居村啓子先生にお話を伺った。

◆どんな番組なんですか？

子供向けの番組なんですが、たまに大人の方も聴いてくださっているようです。英語を勉強するのではなく、楽しく触れてもらう、というコンセプトの番組です。

◆これまでもラジオ出演経験がおりとか？

2年前に児童英語教育が専門の知り合いの先生を通じて、ラジオに数回出させていただきました。「基礎英語ゼロ」という番組で、小学校英語に関わる先生方が出演していました。私もその一人として、子どもの英語のギモンに答える、というコーナーに出させていただきました。

当時のレギュラー出演者はサンシャイン池崎さんとモデルの花音さん。子どもとの対話がとにかく楽しかったのを覚えています。

◆その縁で今回の番組登場ですか？

しばらくして、ラジオを担当される方々が大学に訪ねて来られ、令和2年度より小学校に「外国語」が正式に導入されるに伴い、週2回だった番組を拡大し新しい番組として立ち上げる企画について伺いました。

そこから、日本の小学生にとっての「外国語教育」とは何か、という大きな「問い」と向き合うようになったんです。

ラジオ番組作成という責任で、最初は不安でしたが、スタッフの方々が素晴らしく、同じ船に乗ってオールを漕いでいる感じです。この臨場感がとても楽しいのです。

◆ラジオ番組に出演する際の準備と注意

出演する前の事前の台本の打ち合わせに時間をかけています。言葉一つ一つ、丁寧に検討していきます。

あと、体調管理ですね。番組は長期間なので、リズムをくずさないように心がけています。

10分しかないなので、どうしたら、子どもにわかりやすく説明できるかという点に気を使います。英語と日本語を交互に入れながら解説をしてい

くのですが、音声だけの世界は繊細そのもの。視覚情報がないので、曖昧さは禁物です。子どもと話すときは、はっきり、ゆっくりですね。

◆どんな番組なんですか？

基本フレーズを子供たちにとって身近で「あるある」場面で使えるように設定し、ストーリーの中で紹介していきます。最後のオチは視聴者の子供たちが考えて投稿できるようになっていて、参加型の番組になっています。

毎回とても面白いオチを子供たちが考えてくるので、その発想には驚かされます。大学生のみなさんも是非、聴いてみてください！

◇記者の私は、今回の取材にあたり、小学生の基礎英語」を聞いてみた。素敵な場所に行こうよ。の後に続くオチでは、何もない博物館だよ。」や「ミリ先だよ。」など小学生らしく大人には思いつかない発想に驚かされた。小学生の発想の豊かさ、そして純粋さがとても新鮮に感じられた。

（加藤 瑞貴）



（居村啓子准教授）

博多弁と英語のバイリンガル— 新任教員ジェフ先生

とても明るく、ユーモアがあるジェフ・ムーア先生。アメリカのワシントン州出身の彼は、拓殖大学でSpeak & Writeやワークシヨップを教えている。オンライン授業で知らない人も多いので、お話を伺った。



ジェフ・ムーア先生

Q なぜ日本に来たの？

親友（トム）の結婚式が熊本県で行われたから、それに参加する為に初めて日本に来たんだ。そこで、トムの結婚相手の親友を好きになって、彼女に「日本に来て！」と説得された。

当時、アメリカでネットワーク管理者として働いていたけれど、あまり稼げなかったなので日本に来ることを決めたよ。

Q 教師になった理由は？

もともと大学の専攻が歴史と経済だったから、日本で歴史の先生になりたかったんだ。

けれど、時間がかかるから、代わりに英語の先生になることにした。

博多のイーオンで英語を教えていた際に、伸びる人と伸びない人のギャップがあることに気が付いた。その差は、音の差（sheep ~ ship など）を理解していないからだと思えたんだ。なので、上智大学の大学院で英語教員になるために音声学についても学んだよ。

Q 授業で気を付けていることは？

多様性を意識しているよ。生徒一人ひとり、ニーズやスキルは違う。沢山話して英語力を伸ばしたい人もいるし、自信がなくて安全な方法でしか話さない子もいる。だから、僕のクラスではみんなが積極的に授業に参加できるように八つの異なるアクティビティ（短めのプレゼンテーションや記事を読んで感想を書く）を行なっているよ。

Q 尊敬する人は？

ノーム・チョムスキーだよ。彼は言語学の父と言われている人なんだ。彼は言語学だけではなくて、政治にもアクティブで、ベトナム戦争やイラク戦争に反対するために熱心に戦ったんだ。

僕も彼のように、じっとしてゐるのではなく、変化を生み出そうと意識しているよ。

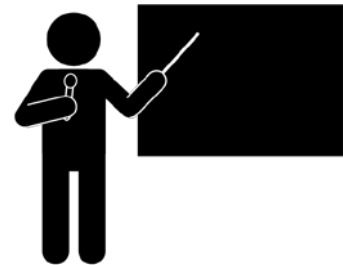
Q 今、関心があることは？

語学の勉強が好きで、今は中国語を勉強しているよ。中国語は英語と文法が同じで、日本語を勉強して漢字を既に分かっていたから、そこまで習得するのは難しくないよ。英語、日本語、中国語、スペイン語の4か国語を話せるんだ。

Q 英語と博多弁で一言

Many students are worried about making mistakes. They feel like making a mistake is embarrassing. Mistakes are good! When we make mistakes, we learn. 気にならずに、間違えてもよか！失敗は成長の元やけん。

（本城 真優）



ボランティアのすすめ——大越貴子先生の世界を変えた識字学級

2021年春から外国語学部国際日本語学科所属となった大越貴子准教授は、川崎市ふれあい館にある識字学級で、在日韓国・朝鮮人や、仕事や家族のために来て日本に暮らす人たちに、ボランティアで日本語を教えるながら共同学習のアドバイザーをしている。戦前から川崎は工業地域や新規事業の発展、戦後の復興作業などで働き口が多く、在日韓国・朝鮮人が集住していたという背景がある。そんな歴史を持つ地域でボランティアをすることで、大越先生は何を得たのだろうか。

◆先生でなく共同学習者

この識字学級は、日本語が不自由なために辛い生活を送りながらも、日本社会の一部として暮らしている人達に寄り添い、支えていくことを目的とした場所である。大越先生は日本語を教えているが、ボランティアとして参加する側も教わる人が多い。

国籍や民族、性の違いのために虐げられてきた人から直接聞く話は、初めて知ることが多く、重みがある。

「そんなことがあったなんて」と思わず言いたくなるような話もあって、日本人なのに日本の歴史を知らないことが恥ずかしくなった。

このように相手から気付かされること

がよくあるため、この識字学級で教える人は、先生ではなく「共同学習者」と呼ばれる。

◆多様な教え方

識字学級で働き始めたころ、大越先生は日本語教師の資格を持つため、他の共同学習者の人より上手に教えることができるという自信があった。しかし、かえって専門知識や技術が邪魔になることもあるという。

例えば、共同学習者の中に、カタコトの言葉や翻訳機を使って生徒とコミュニケーションを取っている人がいる。この人は、日本語がままならない外国人学習者に健康保険の話をした。「そんな難しい話を通じるわけがない」と大越先生は思ったが、彼らはすぐに盛り上がり上っていた。

大学の留学生相手の日本語教育の常識は、地域の日本語活動には通用しないと、大越先生は大いに反省した。

◆無意識の差別

大越先生は、知らないことが差別になり得るとも言う。

識字学級で外国人学習者と交流する中で、彼らが直面する現実を目をそらし続けてきた自分に気づいた。この人たちが日本人に虐げられてきたことを知

らなくてもいい、と無意識に思ってしまうこと自体が差別ではないか——。

「『知らなくてもいい』という考えは、知らなくてもいい立場にいるからこそ出てくる考えなのです」と大越先生は指摘する。立場を変えて見ようとしなければ、差別の問題は解決しない。

「ここで自分自身も成長していく過程が楽しい」と大越先生は話す。

外国学部長塩崎智教授は、「外国語学部の学生は、こつこつ勉強しなければならぬせい、あまり課外活動に積極ではない。外国語学修とボランティア活動を結び付けてみては？」と提案している。

自分の世界観を変えるボランティア活動。私たち学生も体験すべきかもしれない。(堀江 冬到)

左大越先生とふれあい館の人たち



夢に大きく近づいた教職用イギリス留学

英米語学科の教職志望学生が毎年参加している、イギリスの英語教員養成プログラムがある。4年生で唯一参加した小田島陸さんに、本学の教職プログラムとあわせて話を聞いた。

Q そもそも、どうして教員を目指したの？
— 憧れの先生との出会い

中学2年生のときの担任の先生で、生徒会の担当でもあった先生がきっかけ。当時、部活と勉強と生徒会の両立に苦しんでいた時期に、その先生は僕に寄り添ってくれた。その後、違う職業に目を向けたこともあったけど、会社員よりも教員として社会に貢献する方が、自分に合っていると感じた。大学入学後、英語の楽しさに改めて気づき、英語教員になる決意を固めた。

Q 拓大の教職制度はどう？
— 教育・発達心理学とゼミからの学び

小澤貴史准教授の教育・発達心理学は学ぶことが多かった。発達障害について知ることとは、誰にとっても分かりやすい授業を作るきっかけにもなる。この学びは教員になってからも生かすことができると考えている。

「英語教師・教育研究」を行う保坂芳男教授ゼミでは、3年次に英語教育に関する論文を学生が訳読する。4年次では教員採用試験の過去問を解き、模擬授業も行う。ゼミを通して、生徒にとってより良い授業とは何か、考えることができた。

Q 教育実習での学びとは？
— 生徒に寄り添う大切さ

5月末から3週間、中学校で実習を行った。大事だと思ったことは二つある。教育実習を通して、最終的にしたいアクティビティのために今何の活動が必要なのか、長い目で授業を計画すること。それから、生徒が楽しんでいたところや興味を持ったところを、積極的に授業に取り入れることだ。

Q 留学はどうだった？
— 自信を持つきっかけ

2年生の2月から4月にかけて英国ボーンマスに留学した。短期研修の派遣先でもあるビート・ランゲージ・センターとその教員養成の提携校ITTCに同時に通った。教員養成には3つのコースがあり、自分はTESOLという英語を英語で教える分野について学んだ。

同じクラスの学生は半分以上がネイティブだったので英語力が高く、英語教育に関する知識も豊富だった。そんな彼らに自分が作成した授業の教案をチェックしてもらったり、悩みを相談したりと、自分の弱点を克服するために、積極的に行動した。

Q 目指す教師像とは？
— 生徒にとって一番の味方でありたい

英国で出会った語学学校の教員は日本の教員以上に、英語を教えることに誇りを持っている印象を受けた。自分も日本人らしい謙虚さは保ちつつ、もっと自信を持ち

ながら英語を指導したいと思った。

また、教員は生徒と関わる時間がすごく長い。だからこそ自分の憧れの先生のように、常に生徒に寄り添い、共感できる教員でありたい。もし生徒間でトラブルが起きたら、叱るのではなくなぜそれが起きたのかを丁寧に話を聞いてあげたい。また、実習での経験を生かして、生徒の小さな頑張りを見つけていきたい。

Q 後輩へのメッセージ
— 考えることを止めない

他の学生と比べて忙しいのはもちろんだ。しかし良い教師になるために、一つ一つが自分にとって重要なことだから頑張ろうと思うことができた。

教員は責任が伴うからこそやりがいのある仕事だと思う。最終的に教員になってもならなくとも、教員を目指す過程は良い経験になると思う。どんな先生になりたいのか考え続けて。

由)

(河村 真



留学先での様子
左から2番目：小田島陸さん



SNSのコンテンツをバイリンガルで開発する「河原ゼミ」とは？



2020年に新設した河原清志教授ゼミ。通訳や翻訳を学ぶゼミだが、その実態はあまり知られていない。今回、河原ゼミに在籍している富永大瑛さん（4年生）にゼミについて活動の様子を聞いた。

■河原清志先生とは？

「最初はお堅い人だと思っていた」と富永さんは言う。法学部出身、塾講師、仏教僧侶、言語学研究者、趣味スピリチュアルという河原先生の経歴には誰もが戸惑う。今では、ゼミの活動を通して、お酒好きで学生との交流を楽しむ人ということが分かったと言う。

■3年生の活動は？

現4年生のメンバーは10人で、国際政治、差別問題など様々なテーマに興味を持つ学生たちだ。3年生前期は自己紹介をはじめ、自分の好きな事やニュース、映画のプレゼンを日英語で行う。

後期は三つのグループに分かれ映像作品を制作する。富永さんの場合、ポッドキャストを用いて英語のニュースなどの文字起こしと字幕を作成した。ほかのグループはアメリカ大統領選挙の、日英や他国からの視点のまとめや、海外アニメの日本語字幕の作成をした。

■4年生の活動は？

4年生では、日本への関心を持つってもらうために、インスタグラムを使って、日本語や食べ物など、日本の文化を発信している。運営では三つのチーム（文章作成、投稿画像の作成、説明・ハッシュタグ作成「広報」）に分かれ、週に3回投稿している。4年生は就活があるので、前期はアイデア出し、後期に作成、投稿をしている。

作品制作や字幕ルール、英語での文章作成と、日英語両方を扱い大変だと言う。

言語やSNSの運営方法について知ることができ、コメントやフォロワーが増えるやりがいを感じるとも言う。

■どんな学生におススメ？

ゼミでは学生たちが活動を決め、好きなことをさせてくれるため向き不向きは無い。しかし、グループ活動があるため協調性は必要だ。また、ゼミを通して卒論制作（希望者のみ）や日英語の違いを意識することができる。



河原清志先生

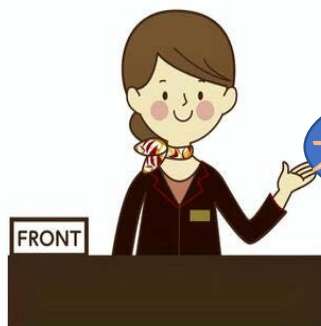
（南野 太志）

■河原先生からのメッセージ

「SNSのコンテンツの開発と発信を、英語と日本語のバイリンガルで一緒にやりましょう！基本的には、ゼミ生が好きなコンテンツをクリエイティブに開発しており、その工程で通訳や翻訳の作業が入ります。好きなことができて、自分の得意分野を活かせるので、趣味と勉強を兼ねて面白いことが楽しくできるゼミです。」



ゼミの運営説明をする
富永大瑛さん



大手高級リゾートH就職、河村真由さんに聞く

昨年に続き、今年も航空、ホテル、旅行関係は厳しいと言われているが、4年生の河村さんは、誰もが知っている憧れの高級リゾート会社Hに就職が決まった。そのプロセスを語ってもらった。

◆就活方針はどのようなものだったのですか？

就活に本格的に取り組むまでは観光やホテル業界を志望していました。きっかけは大学2年生の時に参加したオーストラリアへの短期研修です。その時に、日本文化や日本の良さを再認識し、将来は国内外に日本文化を発信したいと思いました。しかしコロナの影響もあり出版や広告にも視野を広げて就活を進めていました。

◆リゾート会社Hの面接はどのようなものでしたか？

ホテル会社は他にも大手ビジネスチェインのRを受けたのですが、Rは普通のグループ面接でした。しかし、内定を頂いたHは面接過程が一風変わっていました。

〈一次面接〉
グループワーク活動で、約5人4グループに分かれ会社の用意したお題で（お客様からのお礼）という設定の手紙を読みます。それから分かる宿泊者の感想やこちらのサービスの良し悪しを分析するというものでした。

〈二次面接〉

今回も、グループ面接で前回のグループワークの振り返り、会社のイメージ、サービスについて話し合うというものでした。ここでも自己PR、志望動機など面接でよく聞かれる内容について質問ありませんでした。一次二次を通して協調性、コミュニケーション力を見られていた気がしました。

〈最終面接〉

最語は重役と15分くらいの面接でした。ここで志望動機と就職後のキャリアプランについて聞かれました。

◆コロナの影響は何かありましたか？

H、R共に採用人数の變化などはありませんでした。

◆最後に後輩へのアドバイスをお願いします。

接客業ということもありアルバイトをするなどして接客に慣れておくとうまいです。面接でも実際の仕事でも有利になると思っています。あとは印象が大事なので日ごろから笑顔や姿勢、態度などを常に意識しておくことも大事ですね。

（岡本 紘汰）



リクルート姿の河村さん

顧問センス

8月現在、コロナの勢いは止まらず、20代、30代の若者を中心に感染者が増えている。ニュースでは必ず若者がインタビュされる。

今の世の中、大学生を始めとして、なぜか若者の声が聞こえてこない。テレビの若者インタビュも「お行儀のよい、よそ行き」のコメントが多い気がする。

大学生の本音を聞きたいと思いい、横山汐梨編集長に探りを入れてもらった。

(顧問・汐崎 悟史)

編集後記

東京では7月に4度目の緊急事態宣言が出され、翌月には都内の1日の感染者数が5000人を超える日もあった。

20代の感染者が非常に多いことから、この感染拡大は若者のせいであるかのように報じられている。確かに、八王子駅周辺の繁華街は飲酒可能の居酒屋が若者で繁盛している、という。それに対して若者はどう思うのか。インスタグラムで私のフォロワーである学生に調査したところ、反対意見が目立った。

友人Aは「**20代は労働の主要年齢層であるうえ、大学が再開していたりするので、感染し得る環境にいる人が他の世代より多い。若者の感染者の母体数が多いのは必然ではある**」と述べて、**「しかしメディアが『若者の浅はかな考え』として、変なところだけを切り取って放送することで、悪いステレオタイプの助長をしている。明らかに少数派の者を取り上げて、『若者』として印象付けるのはタチが悪い」と反論。**「緊急事態宣言の効果が不明瞭で政府への信頼が下がり、自粛する人が

減少。ワクチン接種の開始もあり、人々の緊張感が薄れているように見える。これらが感染拡大の原因ではないか」と語る。

友人Bは「**感染の波を若者が『が』広げていると言うよりも若者『も』広げている。この言葉の違いが大事だ**」と言う。

これらの意見は若者の少数派の意見ではなく、20代の声を代表していると私は思う。この新聞で編集長を務める私自身も、改めてメディアのあり方を考えさせられた。

バイト先の渋谷駅前のワインバーは休業したままだ。皆が楽しそうにグラスを傾けている姿が懐かしい。

来年度から社会人として働く身としては、**仕事上がりの一杯**の場が早く正式に確保されることを祈る。

(編集長・横山 汐梨)

※現在次号内容検討中